

植物⑥

ハヤトミツバツツジ (ツツジ科)

植物担当 大屋 哲

「春を代表する花は？」とたずねると「サクラの花」とよく言われますが、ツツジの仲間も春先から花を咲かせ、人々に親しまれています。鹿児島では、春を知らせるツツジとして「岩ツツジ」がよく知られています。庭木として人気のある「岩ツツジ」は、地域によってはマルバサツキのことですが、ほとんどがハヤトミツバツツジのことをいいます。

このミツバツツジは、鹿児島に分布するキリシマミツバツツジ、コバノミツバツツジ、タカクマミツバツツジなどよりも少し早く、3月中旬から4月上旬に花を咲かせます。落葉低木で、日当たりがよくて風の強い岩場や崖などに生育し、九州南部に固有のツツジです。

今年の3月中旬に、生育地に行ったところ、民家の裏や私有地の崖など人が近づけない所

に数株花が咲いているのを確認できました。地元の方が「昔はよく見かけたのだが」と言われるように、花が美しいため園芸目的の採取によって個体数も生育地もかなり減少して



います。鹿児島県の絶滅危惧Ⅰ類、環境省の絶滅危惧ⅠA類に指定され、さらに、鹿児島県の指定希少野生動植物種にも指定され、採集・売買も制限されています。

昆虫⑦

身近な美麗種 ^{びれい} ベニシジミ

昆虫担当 中峯浩司

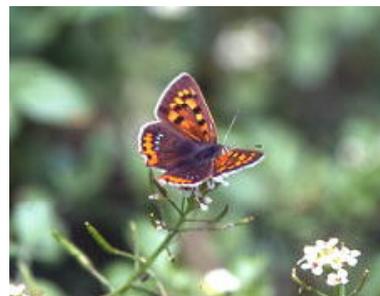
今から35年ほど前、小学校1年か2年の頃だったと思う。種子島の南種子町大川で生まれ育った私は、5つ上の蝶好きの兄の影響を受け、蝶を追いかけてたり標本を作ったりすることが日頃の遊びの一つとなっていた。

ある日、幼なじみの家の前で見慣れない小さな蝶が草に止まっているのを見つけた。羽にだいたい色の模様があるきれいな蝶。震える手で網をかぶせたが、網と地面の隙間から逃げられてしまった。その当時はちゃんとした虫取り網など持っておらず、防風ネットで自作したごわごわの粗末なものだった（私にとってはお気に入りだったが...）。

夢のような出来事のあと、未知の美麗種に出会った喜びと取り逃がした悔しさとで、興奮冷めなまま走って家に帰った。さっそく図鑑を広げて「これ、とりにがした！」と兄に報告すると、「本当に？」と疑いのまなざし。兄も見たことのないその蝶がベニシジミ

であった。後で分かったことであるが、本種は種子島では北部に少数の記録があるだけで、南種子町では記録の無い珍品だった。その後も高校を卒業して鹿児島市に移り住むまで、この蝶を見ることはなかった。

ベニシジミは種子・屋久以北に分布し、県本土ではちょっとした自然が残っていればどこにでもいる普通種。3月初旬から成虫が見られ、春型はだいたい色が鮮やか。夏型は赤みが減って黒っぽくなる。幼虫はスイバやギシギシなどの葉を食べて育ち、一年に数回成虫が発生する。



この蝶が絶滅危惧種にならなくて良かった。草花に止まる可憐な姿は、今でも初めて出会ったあの瞬間を思い出させてくれる。